

## 社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2018. 4  
No.296

### 「100年に一度の大転換期」

今、現在がまさにこの時期に突入しようとしています。前号で松下幸之助氏の「雨が降ったら傘をさせ」について述べましたが、少し違った見方でこれを表現している本がありました。牛尾治朗著「人生と経営のヒント」です。

『易経』に「治に居て乱を忘れず」という言葉があります。平穏な時も万々に備えることを怠つてはならないという教えです。

日本は多くの問題を抱えています。海外からは、こんなに平和で住みやすい国はないと高く評価されています。しかし、肝心の日本人がその自覚に乏しいことが気懸かりです。

ゆえに大事なことは「治に居て乱を忘れず」の心を胸に、これから直面する転機に果敢に立ち向かっていくことです。日本の前途は偏に私たち一人ひとりの自覚と努力に懸かっていることを忘れてはなりません。

今のイナテックは、お客様のお蔭で非常に多くのご注文をいただき、2021年くらいまでは大変忙しく、増産のチャンスに恵まれている状態です。

「易経」にある「万々に備えることを怠つてはならない」という教えは、イナテックにとつては、今の歯車を含めた加工技術を深化させることです。ただ量産に堪えるだけでなく、今のうちに「不良ゼロ・故障ゼロ」を実現させ、次世代の発展に向け「深化」させることです。

さらに牛尾氏の同著より紹介します。

#### 大河の真ん中を悠々と進む

「人生と経営のヒント」牛尾治朗著より

この難しい局面で日本は何を為すべきでしょうか。私が改めて大事だと実感しているのが、安岡正篤先生から教わった「中游」という言葉

です。中游とは川の流れの真ん中において、悠々と流されてゆく状況をいいます。

中国にこんな戯れ詩があります。

「中游中游 不安帯頭 運動来了 随大流」

これは「真ん中だ 真ん中だ 先頭などに立つてはいけない ことがはじまったら 大きな流れに随いなさい」という意味だそうです。

いま大事なことは、世の喧噪に惑わされて本質を見失うことなく、大河の真ん中をゆつたりと歩くように、時代の趨勢の中軸を歩んでいくことです。

これもまさしく「雨が降ってきたら傘をさせ」そのものだと思います。中国4000年の歴史から生まれた詩には重みを感じます。

#### 新入社員諸君、ようこそイナテックへ

2018年度新入社員の皆様、入社おめでとうございます。ようこそこのすばらしいイナテックへ。入社していただきありがとうございます。

これからは皆さんの時代です。この大転換期を乗り切れるのもみなさんだと思っています。

そこで、私なりに電話に例えて時代を考察してみました。

#### イナテックの第一世代【固定電話】

昭和元年から昭和19年まで

これは創業期で、稲垣邦松会長が生まれ、何もない時代からの出発でした。

#### 第二世代【ガラ系】

昭和20年代、私が生まれた時代から昭和39年頃まで

#### 第三世代【スマホ系】

昭和40年から昭和ラスト時代

#### 第四世代【AI・IoTへ】

平成元年から平成12年(2000年生まれ)

この第四世代、平成生まれの人たちがAI・IoT、自動化、ロボット化、人工太陽の時代を乗り切る人たちなのです。ぜひあなたたちの手でイナテックを変えて、この大変革期を乗り切ってください。

そして、新入社員の皆さんにお伝えしたいことがあります。

致知出版社社長の藤尾秀昭さんは、「人間から心・道理を取り除いてしまうと、鳥や獣と何ら変わらない」、「人間は志や夢、理想を持って、初めて人となる」、「そして自分の仕事に精一杯打ち込むことだ。趣味では人間は磨かれない。人は仕事を通してしか自分を磨くことはできない」と言い切っています。

そこで、次のことばを贈ります。

素直な人が伸びる

成功しない人の四条件

- 一、言われた事しかしない人
- 二、楽をして仕事をしようとする人
- 三、続かないという性格を直さない人
- 四、すぐに不貞腐れる人

人間は趣味では絶対に人格は磨かれない

人間の人格は、仕事に打ち込む中で磨かれていく

### 五八

人情世態、倏忽萬端、不宜認得太眞。堯夫云、昔日所云我、而今却是伊。不知今日我、又屬後來誰。人常作是觀、便可解却胸中胃矣。

人情や世相は、たちまちにしていろいろに移り変わるものであるから、あまりその一端だけを真実なものと考えすぎない方がよい。邵堯夫も言っている、「昔、我であると云ったものが、今ではそうでなくて彼(第三者)であった。従って、今日の我が、また後日の誰になるかもわからない」と。人は常にこのような見方をしておれば、それで胸中のわだかまりを解くことができよう。

